

平成 29 年度

城西大学動物実験自己点検・評価報告書

平成 30 年 5 月 1 日

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

本報告書は、城西大学動物実験規定第 14 章（自己点検・評価・検証）第 55 条に基づき、城西大学動物実験管理自己点検評価委員会が作成したものである。

作成日：平成 30 年 5 月 1 日

作成者：松本明世（委員長）、和田政裕（副委員長）、古旗賢二（委員）、一色恭徳（委員）、内田昌希（委員）

平成 30 年 5 月 1 日

城西大学

学長 白幡 晶 様

平成 29 年度 城西大学動物実験自己点検・評価報告書の提出について

平成 29 年度の城西大学の動物実験に関する自己点検・評価報告書を作成致しましたので、ここに提出致します。

なお、自己点検・評価は以下の項目について実施致しました。

自己点検・評価項目

I 規定及び体制等の整備状況

- 1) 機関内規定
- 2) 各種委員会
- 3) 動物実験の実施体制
- 4) 実験施設の設置状況
- 5) 安全管理状況

II 実施状況

- 1) 動物実験委員会
- 2) 動物実験の実施状況
- 3) 実験動物の飼育保管環境
- 4) 教育訓練の実施状況
- 5) 自己点検・評価、情報公開

以上

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

松本 明世 (委員長)

和田 政裕 (副委員長)

古旗 賢二 (委員)

一色 恭徳 (委員)

内田 昌希 (委員)

I 規程及び体制等の整備状況

1) 機関内規程

[現状と点検・評価]

「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(以下「基本指針」と表記する)に適合する機関内規程(城西大学動物実験規程、平成19年10月12日制定・施行、平成22年6月23日一部改正)が定められており、適正であると判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 各種動物関連委員会

[現状と点検・評価]

基本指針に適合する「城西大学全学動物実験管理委員会」の下、「動物実験管理委員会」「動物実験委員会」「動物実験広報委員会」等、各種関連各種委員会が組織され、適正に運営されている。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

3) 動物実験の実施体制

[現状と点検・評価]

動物実験は城西大学動物実験規程第9章に従って実験計画の立案(動物実験計画書、書式1)、審査、手続きを経、適正に実施される体制になっている。動物実験の終了時には実験結果報告書(書式2)と動物実験終了・中止報告書(書式8)の提出が定められており、適正と判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

4) 実験施設の設置状況

[現状と点検・評価]

動物の飼育と動物実験が実施された1号館の実験室、16号館の実験室、18号館の実験室、21号館の実験室、1号館の動物飼育室、16号館動物飼育室、21号館動物飼育室、生命科学センター内実験室及び動物飼育施設はいずれも城西大学動物実験規程第10章第37条から第42条に従って設置管理され、城西大学全学動物実験管理委員会の承認を得たもので、動物実験に適切な施設であると判断できる(実験室設置承認申請書 書式5、実験室設置承認書)。また実験動物の飼育・管理に関しては同規程第11章第43条から第51条に適合する施設が設置されている(飼育保管施設設置承認申請書 書式4、飼育保管施設設置承認申請書)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 安全管理状況

[現状と点検・評価]

動物実験を実施する学部学生、大学院生及び教職員は、全学動物実験管理委員会、動物実験管理委員会、薬学部動物管理委員会・理学部動物管理委員会及び生命科学センターが主催する「動

物管理・実験に関する教育訓練及び施設利用説明・講習会」に参加することが義務付けられており、安全管理体制は整備されている(実験動物施設利用の手引、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

II 実施状況

1) 動物実験委員会

[現状と点検・評価]

「城西大学動物実験規程」に基づき、委員会活動が実施されており、基本指針に適合し、適正に機能していると判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 動物実験の実施状況

[現状と点検・評価]

平成 29 年度は 116 件の動物実験計画書が提出され、外部委員 2 名を含む動物実験委員会(6 名)で本学の動物実験規程に照らして審査した結果、すべての動物実験計画が許可された。動物実験委員会による動物実験計画書の審査は、厳正・適正に実施されたと判断できる。

動物実験を実施するすべての学部学生、大学院生及び教職員は、全学動物実験管理委員会、動物実験管理委員会、薬学部動物管理委員会・理学部動物管理委員会及び生命科学センターが主催する平成 29 年度「動物管理・実験に関する教育訓練及び施設利用説明・講習会」(第 1 回 4 月 22 日及び第 2 回 5 月 13 日)に参加することが義務付けられており、動物実験の実施状況は良好であった[実験動物施設利用の手引き(生命科学センター、薬学部動物施設)]。平成 29 年度に実施された動物実験に関する動物実験計画書(書式 1)、動物実験結果報告書(書式 2)、動物実験計画(変更・追加)承認申請書(書式 3)、動物実験終了・中止報告書(書式 8)(延べ 116 件)を精査した(平成 30 年 4 月 18 日)結果を別表にまとめて示した。別表の申請数とは最初の動物実験計画書の申請数であり、使用数は動物実験終了・中止報告書の使用数である。平成 28 年度の実験動物使用匹数は以下の通りである。

・ラット	5,366 頭
・マウス	6,180 頭
・ハムスター	42 頭
・家兎	5 頭
・両棲類	156 匹
・ブタ(摘出類)	24 頭分(48 枚)

合計 11,749 頭+ブタ摘出類 48 枚

すべてにおいて所定の書式が提出され、申請数と使用数の間に当初の計画と大きな違いがあるも

のについては、全て動物実験計画(変更・追加)承認申請書が提出され、承認されている。

平成 29 年度における動物実験に基づく研究成果は学会における発表 54 件、論文として 12 報が公表された。薬学科 6 年制は 11 年目となり、大学院博士課程 4 年生までが在籍し、研究活動が益々盛んになっている状況がうかがわれる。その結果、学会発表件数は昨年度の 32 件から 169%に増加している。一方、論文件数は 12 報と昨年度の 14 件よりも少なくなっているが、動物実験報告書を見ると論文作成中・投稿中としているものも多く、誌上発表を意識していることが判断できる。また、多くの研究成果が卒業研究論文、修士研究論文等にまとめられている。

平成 29 年度において、実験計画書 116 件中 11 件の中止及び多くの実験計画の変更が認められた。しかし、実験計画の変更では、当初より使用した動物数が増加した研究も散見されるものの、変更申請された多くの研究では、超微量定量法の適用、実験群数の削減、あるいは実験の進捗状況による、実験動物の使用数を削減するためのものであった。

[改善方策]

動物実験の実施状況は昨年度と同様に良好であった。研究成果の公表については、学会発表は昨年度より 169%増加しているが、今後、さらに誌上発表数の増加が望まれる。また、多くの研究は、卒業研究、修士論文研究、及び、博士論文研究として実施されているものと考えられ、多くの報告書で、これらの論文についても「動物実験結果報告書」の「5 成果」に記載されている。次年度も卒業論文等の件数を積極的に記載するようにすると良いと思われる。

3) 実験動物の飼育保管環境

[現状と点検・評価]

実験動物の飼育・管理に関しては城西大学動物実験規程第 11 章第 43 条から第 51 条に従って適正に実施された。東日本大震災の教訓から、動物飼育施設において、特に遺伝子改変動物の飼育に関しては、厳重な飼育場所と同時にネズミ返し等の防御策がとられ、また、可燃性のエーテルがプラスチックの箱の中に置かれ瓶が破損しないような対策が施されるなど、改善されている。

飼養施設における実験動物への感染症予防のために、21 号館動物飼育施設は、平成 29 年 3 月、16 号館動物飼育施設及び生命科学センター内実験室と動物飼育施設は、平成 29 年 7 月に消毒が実施されている。また、他の実験室や飼育室も適切に清掃されている。

なお、6 号館動物 6 号館の飼養施設及び実験室は、薬学部機能の 21 号館への移設に伴い、平成 29 年 4 月 12 日をもって 6 号館動物室を廃止された。

[改善方策]

地震などによるケージの落下を想定し動物が逸走しないよう、飼育環境の整備に努め、また密室性が高いことを考慮し、可燃性有機溶媒の保管には引き続き注意することに努める。

まれに放置されている動物がいると思われるので、各研究室で飼育動物の管理に努める。

過去にあった野ネズミの侵入は、確認されてはいないが、引き続き注意することが必要である。

4) 教育訓練の実施状況

[現状と点検・評価]

平成 29 年度 第 1 回 4 月 22 日及び第 2 回 5 月 13 日に、動物実験に関わる全ての教員、大学院

生、学部学生、研究生を対象とした実験動物施設利用説明・講習会が基本指針に沿って適正に開催された(実験動物施設利用の手引き、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

犠牲動物に対する慰霊祭は平成 30 年 3 月 10 日に催され、動物実験に関わったほとんどの学生、大学院生及び教職員が参加した。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 自己点検・評価、情報公開

[現状と点検・評価]

城西大学動物管理自己点検評価委員会による、平成 29 年度の動物実験管理に関する自己点検評価は、全ての動物実験結果報告書が提出され、各委員会の報告書も提出されており、ここに同報告書を作成することができた。

情報公開については、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」に準じて、1) 全学動物管理委員会等の名簿、2) 平成 28 年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書、3) 動物実験に関する届出・計画書式が公開されている(平成 29 年 5 月 19 日)。

なお、公益社団法人日本実験動物学会外部検証委員会により、「動物実験に関する外部検証事業」による自己点検・評価報告書に対する検証が、平成 29 年 12 月 4 日の実地審査を含めて実施された。

検証の結果、「学長が委員長を務める全学動物実験管理委員会の統括下で、動物実験管理委員会、動物実験委員会、動物実験広報委員会、動物実験管理自己点検評価委員会が設置され、大学幹部と多数の教員が動物実験を適正に実施するための委員会活動に関与し、役割別に整備された各委員会は適切に機能しており、委員会での審議内容も詳細に記録保存されている。特に、自己点検評価と広報に関する委員会を独立して設置することで自己点検・評価結果の改善への反映や情報公開の促進を図る取り組み、ならびに複数の外部委員が参画する動物実験計画等の審査体制は高く評価できる。また、飼養保管施設の整備と維持管理も計画的に行われている。一方、生命科学研究センター以外での飼養保管の責任体制や緊急時対応については改善の余地が認められ、危機管理の観点から一層の充実を図られたい。」と総評された。

この外部検証の報告書(平成 30 年 3 月)についても、全文が情報公開されている(平成 30 年 4 月 24 日)。

[改善方策]

外部検証の報告書の「3) 検証の結果」において、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とされ、「4) 改善に向けた意見」で指摘されている内容については、動物実験管理自己点検評価委員会として、各委員会に改善されるよう要望する。

また、平成 29 年 12 月 4 日の実地審査において指摘された一部改善すべき点は、以下の通りであった。

1. 〈城西大学動物実験規程について〉
 - ・組織図にある委員会について、規程との結びつきがわかるよう規程に明記する
 - ・人(実験従事者)の健康管理、罰則規程について追加
 - ・環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」を規程に盛り込むこと等
2. 〈緊急時の連絡網について〉
 - ・連絡網を整備して現場に掲示すること
3. 〈動物逸走時の対策について〉
 - ・動物逸走時の対応マニュアルを作成(ネズミ返しを超えての逸走時も想定すること)
 - ・捕獲用の網、トラップを各研究室及び実習室にも準備する
 - ・組換え動物の逸走時における文科省(ライフサイエンス課)への連絡を明記
4. 〈21号館動物室について〉
 - ・個別飼育ラックの設置を望む(折角の新しい設備が台無しである)
 - ・動物の適正飼育に関して、「ラットをマウスケージで飼う」、「ラットの逸走防止にテープで金網を固定する」等の行為は、不適切な飼育方であり、改善を求める
 - ・搬入搬出時や、週一回程、飼養している講座ごとに匹数の管理を行い、逃亡等の確認を行う
 - ・輸送時には、ケージにカバーをする等管理を行い、一般の目にさらさないようにする
 - ・動物の逸走や人獣共通感染症の感染などのリスクを減らす整備を行う
 - ・個別ラックとオープンラックが混在している
 - ・洗浄室がない
5. 〈動物実験計画書について〉
 - ・動物実験計画で、ブタの皮膚の場合申請は必要なのか
6. 〈実験室について〉
 - ・申請時以降、定期的な点検は行われているか
7. 〈教育訓練について〉
 - ・人獣共通感染症項目について教育訓練に追加すること
 - ・動物実験計画書の実験従事者が教育訓練を受講したか確認しているか
8. 〈情報公開について〉
 - ・ホームページに委員の所属・専門分野・3つの区分を追加する
9. 〈エーテルによる安楽死について〉
 - ・エーテルを使用する場合は、使用する理由を明記し、委員会として記録を残しておくこと
 - ・エーテルの使用ルール(換気・ドラフト使用)を守り、実験を行うこと
 - ・大学として適正と判断した計画に限り、承認すること

以上の指摘内容についても、実験動物管理自己点検評価委員会として、各委員会において改善されるよう要望する。

H29097			720	735									4	1	Exp Dermatol 2018 in press 国内学会発表4回			○		
H29098	80	60													薬学部薬科学科 薬科学実験B ラットの解剖			△		
H29099			1200	1540									4	1	スフィンゴミエリン合成酵素KOマウスの系統維持・繁殖 Exp Dermatol 2018 in press 国内学会発表4回			◇		
H29100	150	150	220	220											薬学部医療栄養学科 解剖生理学実験B			○		
H29101	17	0																△		
H29102	42	43															○			
H29103	24	0																△		
H29104	30	0	90	4														△		
H29105			24	24													○			
H29106	72	25													薬学部薬科学科 選択実験			△		
H29107			48	0											薬学部薬科学科 卒業論文1編 2018予定			△		
H29108	18	17											1		日本薬学会第138年会(金沢)			○		
H29109	40	0	200	190									1		日本薬学会第138年会(金沢)			△		
H29110			114	21														△		
H29111			6	7											抗体の作成 理学部科学科 卒業論文1編				◇	
H29112			7	6											抗体の作成			○		
H29113								82	82						同種類の系統保存 ネッタイツメガエル3系統(親54匹から仔392匹孵化) メキシコサラマンダー2系統(親28匹から繁殖条件検討中)			○		
H29114								18	18						同種類の系統保存 ネッタイツメガエル3系統(親16匹孵化条件検討) メキシコサラマンダー1系統(親2匹繁殖条件検討)			○		
H29115			200	48															△	
H29116			80	33											表皮特異的スフィンゴミエリン合成酵素KOマウスの系統維持・繁殖				△	
計	6415	5366	8127	6180	36	42	7	5	156	156	24頭分(48枚)	24頭分(48枚)	54	12						

* 「一部変更・追加して実施」の「△」は申請数に対する使用数が10%以上減少、「○」は申請数に対する使用数の増減が10%未満、および「◇」は申請数に対する使用数が10%以上増加を示す。

平成 29 年度 動物実験管理自己点検評価委員会活動報告

委員会名	動物実験管理自己点検評価委員会
委員	委員長 松本 明世 副委員長 和田 政裕 委員 古旗 賢二 一色 恭徳 内田 昌希
会議回数	1 回（メール会議）
実施状況と結果	各実験動物委員会報告を受け、取りまとめと評価についてメール会議を行った。 平成 29 年度 城西大学動物実験自己点検・評価報告書を学長に提出した。
活動の評価	予定通りに行った。

平成 29 年度 第 1 回 動物実験管理自己点検評価委員会（メール会議）議事録（修正）

審議者 松本 和田 古旗 一色 内田

期 間 平成 30 年 4 月 25 日～平成 30 年 4 月 28 日

議案

1. 平成 29 年度 動物実験管理自己点検評価委員会報告書（案）について

平成 29 年度 動物実験管理自己点検評価委員会報告書（案）について，メール会議により審議をおこない一部訂正の上，承認された。

外部検証により、指摘された一部改善すべき内容については，本委員会として，各委員会において改善されるよう要望することを動物実験自己点検・評価報告書に明記することとした。

以上

2017年度 動物実験委員会活動報告書

委員会メンバー：荻原政彦（委員長）、小林順（副委員長）、清水純、木村光利
内田干城（外部委員）、平ふみ子（外部委員）、
関根静男（事務長）、三橋秀行（事務局）、玉井彩子（事務局）

1 2017年度の動物実験委員会活動計画

- 1) 2017年度の動物実験管理委員会への動物実験実施計画書の募集を依頼
- 2) 定期的な動物実験実施計画書の審査を実施
- 3) 臨時の動物実験実施計画書の募集とその審査を実施
- 4) 動物実験管理委員会へ動物実験実施報告書の提出を依頼
- 5) 動物実験管理委員会へ新規実験室設置承認申請書の提出依頼と調査の実施依頼

2 2017年度の動物実験委員会活動報告

(1) 外部委員出席の下で、定期的な動物実験実施計画書の審査を実施した。

- 1) 日時：2017年4月5日、14時00分～15時00分、於：21号館会議室
申請書類数 100件（受付番号 H29001～H29100）（内新規動物実験実施計画書 27件）が提出された。

本学の動物実験規定に照らした新規の C と D を中心に審査を実施し、全ての計画書に関し承認された。内訳ランク A 1件・B 20件・C 23件・D 56件

- 2) 日時：2017年10月20日、15時00分～16時00分、於：21号館会議室
飼養保管施設設置承認申請書（2902 1件）及び飼養保管施設設置承認許可（変更・追加等）申請書（08901、08903 2件）および、動物実験計画書（新規 H29101）が提出され、審議の後、承認された。

受付番号：H29101～H29114 が提出され、本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。内訳ランク B 6件・C 3件・D 5件

- 3) 日時：2017年10月28日、13時00分～16時00分、於：メール会議室
受付番号：H29115～H29116 が、動物提供者の作成時期の関係(遺伝子組換え動物)で特例として提出され、本学の動物実験規定に照らした特例審査をメール会議にて実施し、承認された。内訳ランク C 2件

(2) 動物実験管理委員会から提出された 2017年度の動物実験実施報告書の審査を実施した。

- 1) 日時：2018年4月2日、12時50分～14時30分、於：21号館会議室
実施報告書 116件（承認番号 H29001～H29116）（116件）が提出された。
本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

3 2017年度の動物実験委員会活動の自己評価

年度当初の活動計画を実行できたものと考えられる。また、「飼養保管室状況視察点検票」及び「飼養保管施設の維持管理状況」において指摘された事項(例えば、16号館マウスケージ内の適正飼育数や床敷交換の徹底など)について各実験者教育を通して対

応を行い、改善することができた。

4 その他

- 1) 第三者評価受審結果に伴い、組織および飼養保管施設図を明確にし、HPに掲載した。
- 2) 第三者評価受審結果に伴い、報告書と共に自己点検評価表の提出を義務付けた。

以上

2018年4月2日（月）荻原政彦(委員長)

平成29年度委員会報告

委員会名	動物実験広報委員会
委員	委員長 津田 整 副委員長 上田秀雄 委員 加園恵三、工藤なをみ、須永克佳、片倉賢紀
会議回数	2回 (平成29年度活動報告について。平成29年度に予定される公私立大学実験動物施設協議会の外部検証について)
年度始めの計画	城西大学全学動物実験管理委員会の活動をホームページ等により広報する。
実施状況と結果	実施状況 平成28年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書を平成29年5月19日にホームページで公開した。
自己評価	平成29年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書を公開し、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」に準じた情報公開ができたと考えられ、順当な活動が行われたと評価できる。

平成 29 年度動物実験管理委員会活動報告

委員会名	動物実験管理委員会
メンバー	委員長 夏目、副委員長 真野、岡崎、田中享、金、大島（新）、菊地、小川（JAC）
会議回数	4 回（メール会議 2 回含） 議事録は別紙添付
年度初めの計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・訓練の実施 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出および加筆訂正 3. 平成 29 年度動物実験結果報告書の作成依頼および加筆訂正 4. 平成 30 年度動物実験計画書等の作成依頼 5. 動物慰霊祭の開催 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 6. 平成 29 年度動物実験結果報告書、平成 30 年度動物実験計画書等の提出 → 全学動物実験管理委員会へ 7. 薬学部新棟 21 号館の新動物飼養施設に関連した対応 8. 以下の項目を適宜、指導、実施する。 規定第 20 条 2 の(2)、(3)、(6)
実施状況結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学動物実験管理委員会、生命科学研究センターおよび薬学部動物管理委員会との合同で、平成 29 年度「動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会」を開催した（第 1 回 4 月 22 日（土）および第 2 回 5 月 13 日（土）15：30～、3-101）。 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出を依頼し（7 月）、加筆訂正後、全学動物実験委員会に提出した（9 月）。 3. 平成 29 年度動物実験結果報告書の作成を依頼し（平成 30 年 1 月）、加筆訂正した（平成 30 年 3 月）。 4. 平成 30 年度動物実験計画書等の作成を依頼し（平成 30 年 1 月）、加筆訂正した（平成 30 年 3 月）。 5. 全学動物実験管理委員会から依頼のあった動物慰霊祭を薬学部動物管理委員会と共に開催した。 日時：平成 30 年 3 月 10 日（土） 13：30～ 場所：10 号館 102 6. 平成 29 年度動物実験結果報告書、平成 30 年度動物実験計画書等を全学動物実験管理委員会へ提出した（平成 30 年 3 月）。 7. 動物実験に関する教育訓練及び施設利用説明・講習会で、利用者全員に 21 号館 4 階の新動物飼養施設の利用法等に関して説明した。昨年以前に講習会を受けた大学院生（博士課程）、教員も参加した。 8. その他 1) 次年度の動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の開催日時を協議した。

	2) 薬学部動物施設および生命科学研究センターの平成 29 年度の飼養に関して点検し、各施設から飼養報告書が提出された (別紙添付)。
活動の 評価	<ol style="list-style-type: none">1. 概ね滞りなく行った。2. 動物搬入時の保管を徹底した。3. 第 1 回動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の参加者は 356 名、第 2 回は 287 名であった。4. 動物慰霊祭は、219 名が参加して行われた。

平成29年度第1回動物実験管理委員会 議事録 メール会議

参加者：夏目、真野、岡崎、金、田中享、大島新、菊地

日時：平成29年4月19日（水）

- 議題：1. 4月22日（土）および5月13日（土）に開催予定の「第1回および第2回の動物管理に関する教育訓練および施設利用方法講習会」の役割分担について協議し、決定した。21号館4階の新動物飼養施設の利用説明に関して打ち合わせを行った。
2. 平成29年度の計画（案）について協議し、決定した。

平成29年度第2回動物実験管理委員会 議事録

参加者：夏目、真野、岡崎、田中享、金、大島新、菊地

日時：平成29年9月12日（火）17：30～

場所：21号館会議室

議題：1) 中間期に提出された動物実験計画書（書式1）、実験室設置承認申請書（書式5）等の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験計画書（書式1）、実験室設置承認申請書（書式5）等の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出した。

2) 医療栄養学科の学部学生（3年生）に対して、栄養生理学実習内で行う教育訓練について

全体的な講義を夏目が、16号館の動物施設の利用に関して金が説明することにした（9月27日（水）、16号館301号室）。

以上

平成29年度第3回動物実験管理委員会（動物実験委員会と合同）議事録 メール会議

日時：平成29年9月26日（火）

出席者：真野、岡崎、金賢、田中享、夏目、大島新、菊地

議題：理学部より申請された動物飼養施設について

本件に関して協議の結果、飼養施設の条件が満たされていることから、利用可とした。

以上

平成29年度第4回動物実験管理委員会 議事録

日時：平成30年3月6日（火）16:15～および3月8日（木）17:00～

場所：21号館会議室

出席者：真野、岡崎、金賢、田中享、夏目、大島新、菊池

議題：1) 提出された動物実験結果報告書（書式2）、終了・中止報告書（書式8）、動物実験計画（変更・追加）承認申請書（書式3）の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験結果報告書（書式2）、終了・中止報告書（書式8）、動物実験計画（変更・追加）承認申請書（書式3）の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出することとした。

2) 動物実験計画書（書式1）の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験計画書（書式1）の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出した。

3) 次年度の動物実験に関する教育訓練及び施設利用説明・講習会の開催日時について

平成30年度の標記開催日時を、平成30年4月28日（土）15:30～（第1回）、5月12日（土）15:30～（第2回）とし、場所を10号館501とすることを決定した。

平成 29 年度 実験動物飼養施設報告書（薬学部動物施設）

(1) 6 号館動物室の廃止について

薬学部機能の 21 号館への移設に伴い、平成 29 年 4 月 12 日をもって 6 号館動物室を廃止した。

(2) 21 号館動物施設

年間を通して概ね良好な飼養環境が維持された。21 号館動物施設の保守・点検、消毒、物品購入等を下記の通り行った。

1) 保守・点検

① 新築のため、空調保守点検は割愛した。

2) 消毒：平成 29 年 3 月 21、22 日

3) 物品購入：清掃・消毒用品等

4) 設備の追加整備

① 特別実験室廊下に空調設備を設置した（平成 30 年 1 月 20、21 日）。

② 特別実験室廊下および前室、マウス・ラット飼育室に防犯カメラを設置した。

③ 飼育室内の照明を手動で切り替えられるよう、スイッチの交換工事を実施した。

(3) 16 号館動物施設

年間を通して概ね良好な飼養環境が維持された。16 号館動物施設の保守・点検、消毒、物品購入等を下記の通り行った。

1) 保守・点検・修繕

① 空調保守点検を実施した（平成 29 年 7 月 18、19 日）。

② 空調設備のオーバーホール、部品交換を行った。

③ マウスおよびラットの飼育ラックの給排気装置が経年劣化のため、動作不安定となっていたため、交換した。

④ 前室でケージ洗浄が行えるよう、流し台を交換した。

2) 消毒：平成 29 年 7 月 20、21 日

3) 物品購入：飼育用品の補充、清掃・消毒用品等

(4) その他

1) 利用者のマナーについて

動物室の利用マナーについて、大きな問題はなかった。

2) 動物運搬の際の逸走防止のため、ケージ収納バッグおよびボックス付き台車を整備した。

以上（文責 岡崎）

平成 30 年 4 月 1 日

実験動物飼養施設報告（生命科学研究センター）

平成 29 年度生命科学研究センターにおける実験動物の飼養につきましては、昨年度より SPF エリアにおいてティザー菌の感染問題が起きておりましたが、11月21日付け SPF ヘアレスラットモニタリング検査において検査結果が陰性を示し、SPF エリアの環境を回復することが出来ました。環境の回復に伴い SPF ヘアレスラットの繁殖に向け、親ラットの匹数を増やす作業を行っています。

コンベンショナルエリアについては、問題なく飼養を実施しました。

修繕、保守点検、消毒作業、環境検査、SPF ヘアレスラットモニタリング検査、物品の購入等を下記の通り行いました。

修繕

- 4月26日 空調システム修理
- 5月12日 圧力計・減圧弁交換修理
- 5月27日 5階洗浄室天井水漏れ修理
- 8月 4日 減圧弁修理
- 9月 9日 玄関ドアの開閉不良修理
- 10月 4日 超低温槽修理
- 2月 7日 高圧蒸気滅菌装置部品交換
- 2月22日 空調機点検（ヘパフィルタ交換工事）
- 2月26日 オートクレーブ修理

保守点検

オートクレーブ（大型・小型）法定定期検査 2月15日

消毒作業

生命科学研究センター消毒清掃作業（定期作業） 7月18日～31日

環境検査

- 1回目 6月14日、異常なし
- 2回目 10月30日、異常なし
- 3回目 2月21日、異常なし

SPF ヘアレスラットモニタリング検査

- 7月31日 定期検査
- 8月10日 再検査 C群2匹陽性あり
- 8月21日 再検査実施
- 9月 4日 再検査 C群1匹陽性あり
- 11月21日 確認検査 異常なし
- 3月12日 異常なし

物品の購入

himac 微量高速冷却遠心機、実験動物麻酔装置、フローサイトメーター Cy toFLEX、自動給水ノズル TV-25 部品交換、圧力計 A 型、FP-20N プラグセット (エア用×2 ドレン用×1)、ヘンペイ活栓瓶、減圧弁、ニュービコースワイパー、アクアフィルター 10 μ 、カネフィール、エコンアーク 30、水中殺菌灯、防塵カバーオール、消毒用エタノール、ヒビスコール、ツルクロン、マイクロカット、飼育棚用キャスター、トランスポートアガー、ニトリストタッチ、マイディリーグローブ、無塵衣、保護メガネ、ゴーグル、P-カットテープ、コンフォートサービスタオル、エスクリニカルパック、ルテウム注射液、ビニールテープ、ねずみ捕獲器、ザコネットチューブ 50M、ポリテープ 2 本、業務用特厚ポリ袋、直剪刀、とれとれフィルター、モップ絞り器、水拭きモップ、軍足、亀の子タワシ、ホワイトウォッシュジェル、ドキュメントスキャナー、レーザーカートリッジ 322 II (キャノン)、リサイクルペーパー、15.6 型ノート型パソコン、麻酔ボックス、イソフルラン吸入麻酔剤、サラヤノータッチ式ディスペンサー

生命科学研究センター

所長 岡崎真理